

# 三尺三寸箒会議(BRT)憲章

(2023年5月)

## 本会議の目的

- 自らの経験をシェアすること、自らの葛藤をさらけ出すこと、メンバーと本気で時間を共有することで、メンバー全員が気づきを得ること。
- 結果として、メンバーの目標達成、自己実現の一助となること

## 入会資格

- 経営者が経営者に準ずる立場であること
- 経営者として、人として向上心、成長意欲を持ち、目標達成、自己実現を目指すこと
- メンバーに対し、常に信頼、感謝、尊敬の念を忘れない人であること

## 基本ルール

### 1. 組織の運営

#### 1-1. 人数

各会議体は小グループ制とし、1グループの人数は8～11名とする。

#### 1-2. メンバーの入会

メンバー及び主宰者の推薦を持ってオブザーバー参加を実施し、入会は全員の承諾を条件とする。

特に同業種、直接の競合にあたる場合は慎重に検討し、当該メンバーの意思を尊重すること。

#### 1-3. 退会および休会

「会計年度」内に3回連続の欠席があった場合、自動退会とする。

退会希望については自主申告により許可をする。

また、休会希望の申し入れがあった場合、当事者以外の総意をもって許可する。

#### 1-4. メンバーの役割

モデレーター(基本的に主宰者が担当)

議事進行担当。リーダーシップを発揮してディスカッションが盛り上がり、内容のあるものになるように工夫・対応する。ディスカッションの質を高めるために、BRTプロトコルが毎回守られているかをチェックし、問題点や良かった点などについて指摘を行う。モデレーターが急遽欠席の際、サブモデレーターが代役を行う。

タイムキーパー(基本的に主宰者が担当)

時間の管理、遅刻、早退の管理。

#### 1-5. 守秘義務

「別紙 内密性に関する規約」を厳守するものとし、それぞれの会議体以外への情報開示はしない。この守秘義務は本会退会後も永久に継続するものとする。

#### 1-6 リトリート

できれば1～2年に1度、1泊以上のリトリート(仲間意識・コミュニケーション作りの場)を実施する。リトリートは観光旅行ではなく、目的を持ち、かつ必ず一つはメンバー全員で共有できるイベントを入れること。

#### 1-7 メンバー間の商取引及び金銭の貸借

特に制限を設けないものとする。但し、トラブル等で当事者から問題提起があった場合、

関係当事者以外のBRTメンバーで問題対応について協議をおこなうものとする。

## 2.三尺三寸箒会議の運営

### 2-1. BRT及びリトリートの出席

全員時間厳守の上、出席を原則とする。

遅刻は約束時間を1秒でも過ぎたら遅刻とする。

例:16:00スタートの場合、15:59:59秒まではOK。

遅刻の判断はタイムキーパーが時報を基準に判定する。

欠席、遅刻のあった場合は以下に定めたペナルティを科すものとする。

■BRT:欠席 1万円 遅刻・早退 5千円

■リトリートも同様

遅刻・早退は1時間までとし、それ以上の場合には欠席の罰金とする。

尚、2等親内親族の弔事および本人入院については自動的に免除とする。その他やむを得ない事由については、ペナルティ徴収後、本人以外のメンバーが返金または見舞等の対応について協議する。

■罰金の使い道としては、なるべく会議メンバー全員が揃っている懇親会(忘年会)等で

その費用の足しにするものとする

### 2-2. BRT参加への事前準備

BRTへは決められた準備を完全に行って参加することとする。

### 2-3. 食事・酒

BRT開催中は、お酒・食事は禁止とする。(お菓子、コーヒー、お茶等は可)

### 2-4. 携帯電話・PC

BRT開催中電源を切るか、必ずマナーモードとする。休憩時間以外はBRTに関係しない機能を利用しない。

### 2-5. スケジュール・場所・時間

例会の頻度は年6回、時間は毎回2時間45分、場所はコンフィデンシャリティ(機密性)を前提とするので安全な場所を使うことをガイドラインとする。

### 2-6. スケジュール調整

原則4ヶ月先(次次回)までを決定する。

一旦全員の総意で決定したスケジュールは基本的には変更しない。

特別な事情(災害等)の場合のみ、全員の総意のもと変更する。

### 2-7. BRTプロトコル

結論を出すのはBRTの目的ではない。プレゼンターの代わりに結論を出そうとしたり、「こうすべきだ」と押し付けたり、アドバイスをしたりしない。

原則は経験シェアとする。

プレゼンター等の要請で、アドバイスをする場合でも以下のように行う。

■否定をしない

■「私～」を使って話す 例)私だったらこうする・・・。

(→YOUメッセージでなく、I(アイ)メッセージを心がける)

■自分自身の体験から話す

以上